



びわ湖の漁業

学習のねらい		
<p>○びわ湖の漁業や郷土の食材、伝統的な料理について興味・関心をもつことができる。</p> <p>○魚の水揚げ量や種類について調べることで、びわ湖の漁業の現状に気づくことができる。</p> <p>○外来種の増加や在来種の減少など、びわ湖の漁業に関する課題について考えることができる。</p> <p>○びわ湖の魚と水と人々の生活の関わりについて考えることができる。</p>		
準備物		
うみのご船内で準備できるもの	乗船校で準備するもの	
<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>電子黒板</u> ・ <u>びわ湖の漁法スライド資料</u> ・ <u>びわ湖八珍スライド資料</u> ・ <u>タブレットPC</u> ・ <u>水中カメラ</u> ・ こいたつべ等の漁具 	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>びわ湖の漁業ワークシート</u> 	
主な学習の流れ		ポイント（○）及び留意点（☆）
はじめ	1. 本学習のめあてを確認する。	○フローティングスクールのテーマとのつながりを意識して示す。
なか	2. びわ湖の魚について知っていることを交流する。 <u>（びわ湖八珍スライド資料活用も可能）</u> 3. 漁具の使い方について予想する。 4. びわ湖の漁師の漁法の工夫について考える。 <u>（びわ湖の漁法スライド資料活用も可能）</u> 5. ワークシートに記録し、気づいたことを交流する。	○交流の視点としては、びわ湖にいる魚の種類や郷土料理に使われている魚、釣ったことのある魚などがあげられる。 ☆漁具は丁寧に扱う。 ☆寄港地活動で、エビたつべやもんどりを実際に仕掛けることもできる。 ○漁獲量減少の現状にふれ、魚を獲りすぎないことだけでなく、周辺の森林を守る取り組みや常時環境の変化に注視していることを紹介する。 ○琵琶湖で遊ぶ際に、環境への負荷を減らすために定められた「琵琶湖ルール」を紹介する。 ☆ <u>（タブレットPC）</u> を活用することも可能。
おわり	6. びわ湖の漁師の話を聞いて、本学習のまとめをする。	○フローティングスクールのテーマとのつながりを意識してまとめができるようにする。 ○学習のまとめ②や乗船後の学習につながるようにする。

（※1）活動場所・・・ 活動室・多目的室

（※2）実施時期・・・ 通年

※うみのご船内で準備できるものについては、児童・指導者の人数や班の数に合わせて準備することもできます。